

【徳川家康の生涯の主な戦い】

徳川家康の人生は、究極の選択の連続

- ①天文11年(1542)12月26日岡崎城で誕生
松平広忠と於大の嫡男 幼名 竹千代
- ②永禄 3年(1560)清州同盟を織田信長と結ぶ
- ③永禄 9年(1567)松平姓より徳川姓に改名する
- ④元亀 元年(1570)姉川の戦いで織田信長に加勢する 徳川家康イラスト
- ⑤元亀 3年(1572)三方ヶ原の戦いで武田信玄に惨敗
- ⑥天正 3年(1575)長篠・設楽原の戦いで武田勝頼に勝利
- ⑦天正10年(1582)本能寺の変:家臣34名と必死の伊賀越を計る
- ⑧天正12年(1584)小牧・長久手の戦いで豊臣秀吉と敵対
- ⑨天正14年(1586)大坂城にて豊臣秀吉に臣従
- ⑩天正18年(1590)関東へ移封:8月江戸へ入る
- ⑪慶長 5年(1600)関ヶ原の戦い:石田三成に勝利:江戸幕府
- ⑫慶長19年(1614)大坂冬の陣
- ⑬慶長20年(1615)大坂夏の陣で豊臣秀頼を滅ぼす
- ⑭元和 2年(1616)4月17日75歳で死去
- ⑮令和 5年(2023)【**どうする家康**】でNHK大河ドラマ出演:松本潤

* 武田信玄に大いに苦しめられた家康ですが、天正10年(1582)に武田勝頼が天目山で滅亡すると、武田家家臣団の多くを、自身の家臣団に組み込みこんでいます。五男の信吉に【武田】の苗字を与えて【武田信吉】と名乗らせ水戸藩を治めさせています。



堪忍は 無時長久の基
怒りは 敵と思え



厭離穢土欣求淨土

『神君御文』 神君より秀忠公御台様へ被進候御書
 徳川家康が、二代将軍川秀忠の妻お江の方【崇源院】に宛てた書
 ①条から⑰条までの教育論の抜粋です。教育方針を述べたもので
 現代にも通ずる点も多くあると思います。

- (3) イ 教育を苗木の育て方に譬(たと)ふ。
 (若木のうちに添え木をし悪い枝を切り取れ)
 □ 三郎信康の教育失敗談。(信長の命により嫡男信康は切腹)
 ハ 家来の伝ふことをよく聞け。(教育係の大久保忠隣)
- (4) 我儘(わがまま)をいさめよ。
- (6) 幼児は鷹場に育て、かつ 家のこと家臣筋のことを自然と耳に
 入れよ。武術の嗜も大切なり。
- (10) 人に得手不得手、好き嫌いひあり。偏とするべからず。
 無用と思われるものも 時に有用なこと多し。
- (12) イ 堪忍は第一のこと。心身ともに各種それぞれの堪忍あり。
 □ 堪忍は十全たるべし。一つ二つたりとて破るなかれ。
 ハ 楠木正成・武田勝頼・織田信長・豊臣秀吉の堪忍例。
- (13) 奢侈(しやし)を慎み、万事儉約を旨とせよ。
- (14) イ 人の叱責の仕方。
 □ 家来の不調法や料は、主人の罪なり。
- (15) 家中の風儀風俗を重んじ、乱すことなかれ。
- (16) 生活は規則正しく、質素を旨とせよ。
- (17) イ 日課念仏六万遍づつ唱えて供養と修行にす。
 □ 勇気豪気は大切必要なれど、過ぎれば危うし。



* 家康と信長が結んだ清州同盟は、戦国時代には稀有な軍事
 同盟で、織田信長が本能寺で没するまで守られました。
 この約束を守る姿勢が、徳川家康を天下人に押し上げました。

【徳川家康の四天王】

酒井忠次



本多忠勝



榊原康政

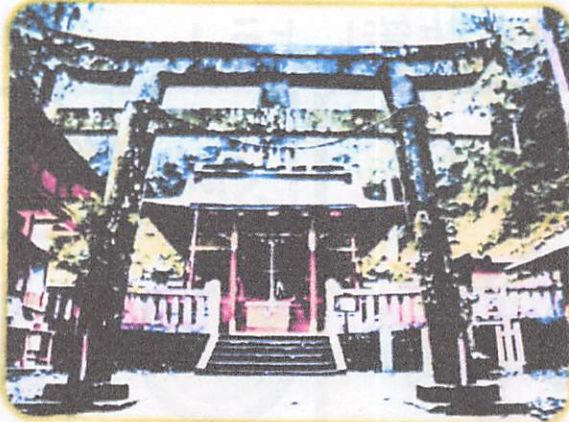


井伊直政



鳳来山文化財

鳳来山東照宮



由緒

徳川三代将軍家光公が日光東照宮に参拝された時、東照宮縁起に、「岡崎城主松平広忠公が立派な世継ぎを得たいと思い、奥方於大の方と共に鳳来寺峯薬師に籠り、祈願して生まれた男子が家康公であった。」と書かれていたのを確認し、ここに東照宮を建てようと発心されました。

鳳来山東照宮は慶安4年(1651)9月、四代将軍家綱公の時に落成されました。

家康公と寅童子

家康公の母、於大の方は立派な世継ぎを授かるようにと三河国鳳来寺に祈願しました。

こうして生まれた家康公は任寅の年、寅の月の寅の日、寅の刻に生まれたといわれ「寅童子」とも言われています。

その寅童子である家康公は、幾度の苦難にも立ち上がり征夷大將軍として戦乱の世を鎮めました。

この「寅童子」には、倒れても起上る家康公の強い意志が受け継がれています。



・徳川家康公の誕生の逸話が語られる鳳来山東照宮
家康は、天文11年12月26日、【虎年(壬)の虎の刻(午前4時)】に、三河国の土豪松平氏8代当主の、松平広忠と於大の嫡子として岡崎城で生まれました。

三代将軍徳川家光が、慶安4年(1651)に東照大権現を祀る鳳来寺山東照宮を創建しました。

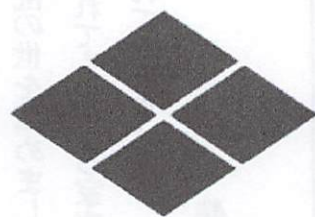
徳川家康と巡る新城市の
【長篠・設楽原古戦場】を散策しよう！

ウエルカム歴史の
 観えるまちへ
長篠／設楽原の戦い
 ☆古戦場へようこそ



・戦国の多くの武将が訪れた街【**新城**】武田信玄も、
 三方ヶ原の戦いに続き三河の野田城を攻めています。

疾如風 徐如林 侵
 掠如火 不動如山



割菱（武田菱）



人は城 人は石垣 人は堀
 情は味方 仇は敵なり

武田信玄